

各務原市移住・定住推進PT会議（第4回）議事要旨

（田中副市長より）

本PTとは別の話だが、このPTメンバーには共有しておきたい話がある、先日、犬山市及び江南市との間で3市防災協定の締結式を行った。南海トラフ地震を見据えた県境を跨ぐ防災協定の締結は、自身が本市の副市長として関わりを持つ以前からやりたかった仕事の一つ。太平洋側の震源地、九州～静岡までの広範囲な被災ラインにおいて100万人都市は名古屋だけ。もしも地震が起きた際、初動では、名古屋に住んでいる人は北の方向に逃げる。岐阜県は受援する立場となるが、毎年大型の台風が来る県レベルの連携が取れている九州などと比べると、東海地方のバックアップ体制は心配されるところ。今回の防災協定を皮切りに、例えば近隣自治体とも連携体制を広げていき、エリア全体として災害に強靱な体制を築いていきたい。

1.4 類型の暫定確定

属性、そしてキャラクター設定に続く今般の類型化については、このPT会議で議論しようと考えていたが、（会議の前にPTメンバーが作成した資料を見たところ、既にPTメンバーによる自主的な）勉強会により十分な整理ができているものと思料。（類型化については、）完成に近づいているものと感じている。

この類型化により、マーケティング上のペルソナ整理を行った結果であり、最終的に施策パッケージ（へと接続するための）土台は完成してきている。しかしながら、この4類型はあくまでまだ仮説として、今後の議論を重ねるうえで、適宜改定していくこととする。

現在、属性→キャラクターの立ち上げ→4類型の整理の段階まで来た。一番大切なのは、（移住を考える）人が、どの人生の局面にいるのかということ。

「共働き・子育て生活再設計型」「若手転職・生活再構築型」「地元回帰・関係性再接続型」「若年定着・初回定住型」の4つの類型の名称は、これを聞くだけで、（この類型が何を求めている層なのか）すぐにイメージできるもの。

この先、全国に訴えていくにあたり、聞いた人が「これは自分の事だ」と思うことができるよう、分かりやすい（名称の）ワーディングが求められるが、これらの類型名称は最後まで使えるのではないかと考えている。

さて、（移住を考える者が）欲しい行政サービスというのは、あくまで「手段」でしかない。次は、それが各務原市で得られた後、自分がどういう人生を送りたいか、という「（各類型が）欲しい人生」の部分にまで、これからPTメンバーには踏み込んでいってほしい。

これは、この先、「各務原市とは何か」という世界観を考える際の最も重要な素材となる。今のままではまだ曖昧だと考える。

今回、PTメンバー自身が生み出した言葉は、聞いた人の本音の部分に刺さるのではないかと感じている。この言葉こそが、若手が主体となった議論でないと出てこないワーディングであり、今後もこの言葉が4類型のどこに当てはまるのかを考えながら、メンバーの力で仮説を更新していってほしい。

2. ターゲット仮説の整理

4 類型の人物像、中心となる価値、人生の課題については、大人数で取り掛かると時間がかかってしまうと思い、(PT メンバーが作成してくれた資料を基に事務局で) ドラフトを作成した。

ただし、これはあくまで「類型・第1版」として今後更新されていくことを想定している。ただし、(この先、仮に新たな類型を考え加えようとしたとしても、) 概ねこの4 類型に収まるのではないかと考えている。

また、一人の人物のサブタイプが複数の類型にまたがることもあるので、その際は適宜付け加えや整理をお願いしたい。そうした中で、4 類型に共通して求められているものがあることに気づくはずである。

注意すべきは、「便利」「安い」「住みやすい」などの一般論で終わらせてしまうと、他の市町との差別化ができなくなる。この各務原市に住むことによって得られる「固有の人生価値」を言語化していくことが重要である。

その上で、次のステージとして4 類型の中で各務原市が最も強く応えられるのは何か、逆に今のままでは応えられないものは何かなどを考えてもらいたい。このまちに長く住めば住むほど、各務原市の弱みなどは見えているはずだと思う。

レジュメで示した「上位概念」とは、すなわち「世界観」のことである。例で挙げているものは、各務原市独自のものでなく、他市町村にもあてはまるもの。これはキャッチコピーを先に決めるのではなく、ターゲットの人生の願いと、各務原市の固有資源との接点から、「世界観」を導き出すことが必要である。

「図」でこれらの位置関係を考えると、4 類型が真ん中にあり、それを支える施策が下にぶら下がるイメージ。そして「世界観」はこの上にあるもの。現状ではこの施策の部分が単発になってしまっているため、(類型ごとに複数の施策を) 結び付ける必要がある。類型や施策だけを見れば、他の自治体と似通ってくるのかもしれないが、この「世界感」は各務原市独自のものでありたい。

これらの作業は難易度が高いと思われる。一度結論が出て再度確認すると違うものが出てきたりする。今回はあえて期限は設けないので、2か3つ、多くても5つほどの「各務原市の世界観」「上位概念」を考え、A4サイズ1枚ほどにまとめてほしい。

(メンバーの意見)

- ・食・住・遊の接続というワードを出してみたが、名古屋へのアクセスが良いがゆえに名古屋まで働きに行くという選択肢もあり、矛盾しているように感じた。
 - いずれにせよ各務原市に関係をもつことになるのであれば、どこで働くかについては今の段階では考える必要はない。
- ・世界観を色で考えてみたが、パッとしないというのが正直な感想。
 - 人が何かに惹かれる時は、感覚的なものが大きい。そこに訴えかけていくための言葉を作っていく必要がある。
- ・自分は「若年定着・初回定住型」で考えた。相談するほど悩んでいないが、道しるべがあれば耳を傾けるという考え方は非常に若者らしいと感じた。自分が関心あるものにお金を使う世代だと思っている。
 - この類型は、裾野を広げるための予備軍であり、重要なカテゴリであると思っている。この

類型にこそ、上位概念・世界観が一番刺さると感じている。

- ・各務原市の世界観について語るとき、すぐに思いつくものはなく難しく感じた。パッとしないとか中途半端さこそターゲットなのではないか。尖った若者は都会や田舎に行きやすい、尖ってない若者が各務原に刺さるのでは。
→ 各務原市で暮らすことにより得られるものを考えることが、世界観を考えるきっかけになるかもしれない。
- ・「若手転職・生活再構築型」のキャラは自身も共感できる部分が多かった。世界観はまだ理解しきれておらず、各務原の世界観がまだ語れない。
→ 各務原で感じられる雰囲気や色、形にないものに人は惹かれるのでは。たとえば渋谷のスクランブル交差点、新大久保の雑踏など、独特の感覚的な魅力を持っている場所も参考になる。
- ・「共働き・子育て生活再設計型」で考えたが、どうしても子どもありきの考え方となってしまう、両親の欲しい人生までアプローチすることが難しい。
→ 自分たちの幸せの基準が子供にあるのなら、子どもを中心として世界観を考えるのも面白いかもしれない。
- ・自分も世界観のイメージまではつかめておらず、航空機→空をイメージするにとどまっている。空だけだと他自治体と差別化を図ることができないため、上手に言語化ができるよう考えたい。
→ 各務原市を知らない人に対して、理解してもらうためにはどのように言葉を紡いでいくかを考えることが大切。
- ・欲しい人生を複数持っている人が多いのではないかと考えたとき、施策パッケージのバランスが大事だと感じた。欲しいものと合わせて他の情報も伝えることが必要だと思う。世界観もキャラをベースに作っていききたい。
→ 良い着眼点。その人に各務原で生活することをイメージしてもらうため、キャラクターに立ち戻る必要がある。キャラを加齢させるのも良いかもしれない。
- ・先日横浜へ旅行に行った。電車や店舗数などの面で非常に便利であると感じたが、一方で暮らすという視点で考えるとあまりピンとこなかった。川や公園、花火ができたことなど、自分の中の原風景が作用しているのではないかと感じた。
→ 横浜出身の人が神奈川出身と言わないのは、横浜の世界観が好きで、誇りを持っているのではないか。各務原市も横浜までではないにしろ、このまちもいいところであると伝える部分での言語化について考えていきたいと思っている。普通に横浜を調べるのではなく、SNSなどの方が生の声として参考になりそう。
- ・地元回帰・関係性再接続型は他の3つと比べたときに、自由が利くので我が強いタイプ。こだわりを持って地元に戻りたいと思っているのでは。そのほか、SNSを見てみると、広告などで「〇〇の人必見」など、気になるものが出てくる。自分事のように考えるとは、まさにこのことだと感じた。
→ 自身が若いころに共感できただろうタイプ。無色透明な自分にリセットしたい気持ちがこだわりの裏返しだったりするかもしれない。

(田中副市長より)

世界観、いわゆる上位概念を創る工程が一番重要な局面となる。相応の時間がかかってもよい。

人のエモーショナルなところに訴えかけるための言語化に取り組んでいただきたい。集まってもらうのも大事だが、世界観は1人1人あるものだと思っている。誰かの意見を否定するものではない。まとめるのは後でできる。

第一段階は既に終わっている。施策化の責任は副市長以下事務局で責任を持つが、できればPTも一緒に取り組んでいただきたい。ペースとしては非常に早く進んでいる。類型化は議論を議論するための「道具」に過ぎず、実際に移住を決めるのは一人一人の人間である。議論が抽象的になった時には、自分たちが作成したキャラクターに立ち戻り、「その人の一日」や「迷い」などを思い浮かべてほしい。

施策のパッケージ化が終われば、シティプロモーションの段階へ入っていきたい。

次回プロジェクト会議（第5回）：8月21日10:30～ 於 本庁3F-1会議室